

藤本一馬 guitar

Walter Lang piano
from München

福盛進也 drums
from München

2019 12月07日(土)

開場 13:00 afternoon live

開演 13:30~

(2ステージ入替なし 途中入場可) (1drink=600円~)

MC 3700円+2drinks order

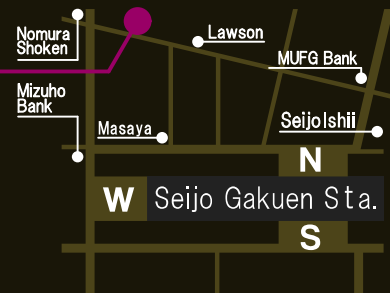
CAFE BEULMANS

03-3484-0047

info.cafebeulmans@gmail.com

東京都世田谷区成城6-16-5-2F

メールでのご予約の場合、
必ず当日ご連絡がとれる電話番号を
ご記載ください。



福盛進也

独特で繊細なシンバルワーク、そしてメロディック且つリズム的なインタープレイで演奏を展開させるドイツで活躍中のドラマー。またダイナミクスの幅が広く詩情的なプレイを得意とする。1984年1月5日、大阪市阿倍野区生まれ。15歳でドラムを始め、17歳の時に芸術高校にて音楽を学ぶために単身で渡米。その後、ブルックヘブンカレッジ、テキサス大学アーリントン校を経て、ボストンのバークリー音楽大学を卒業。10年間のアメリカでの活動後、2013年に拠点をミュンヘンに移し欧州各国で活動を開始。繊細で巧みなドラム・プレイだけでなく、作曲家としても高い評価を得ている。2017年に自身のトリオで、ECMレーベルから日本人二人目となるリーダー・アルバム《For 2 Akis》を録音し、2018年2月に世界リリース。現在、トリグヴェ・サイム (sax)、ウォルター・ラング (pf) との新たなトリオの他、リー・コニッツ(as)、フローリアン・ウェーバー(pf)、山下洋輔(pf)など様々なアーティストとの演奏活動、また日本では伊藤ゴロー (g)、佐藤浩一 (pf) とのプロジェクト「land & quiet」などで活躍中。

藤本一馬

ギタリスト、コンポーザー。1998年ヴォーカルのナガシマトモコとのデュオ、orange pekoeを結成。2002年1stアルバム《Organic Plastic Music》が35万枚のセールスを超え、クラブミュージックを通過し、ジャズやブラジリアンミュージックを融合した音楽性が大きな話題に。2010年よりソロ名義でのライブ活動を開始。雄大な自然からの着想、自己の内面を投影した叙情的なオリジナル楽曲を中心に、ジャズやクラシック音楽だけでなくワールドミュージックリスナーなど幅広い支持を得る。これまでカルロス・アギーレ (pf) やアンドレ・メマリー (pf) 等をフィーチャーしたオリジナル作品、また伊藤志宏 (pf) とのデュオ作を発表し、2016年作の《FLOW》では林正樹 (pf) と西嶋徹 (cb) とのトリオを軸にシルビア・イリオンド (vo)、ジョアナ・ケイロス (cl) を迎え録音。フォークロリクな感性と室内楽の持つ静謐さを内包したコンテンツポラリー・ジャズへ昇華させた。その他、これまで国内および海外まで多数のアーティストと共演。

Walter Lang

1961年ドイツ・シュヴェービッシュ・グミュント生まれ。アコーディオンとピアノを演奏する父と祖父のもとで育つ。ボストンのバークリー音楽院とアムステルダム芸術大学でピアノと作曲を学ぶ。トリオは世界中をツアーしており、特に日本のジャズファンから愛される。また2005年にTRIO ELFを結成。ブラジルの大御所、ミルトン・ナシメントを迎えレコーディングやライブを行い、ブラジル音楽を取り入れる。2008年にスウェーデン出身のトーマス・マークソンとドイツ出身のセバスチャン・メルクを加え、新生「Walter Lang Trio」へと再編。後に元E.S.T.のドラマー、マグナス・オストロムを迎え録音、ツアーを行う。これまでリー・コニッツを含むジャズ界の巨匠たちとの共演を果たし、現在はドイツの名門レーベル、ECM所属の日本人アーティスト、Shinya Fukumori Trioのピアノを担当するなど、幅広いジャンルで活躍中。